

たじまじょうのやまこふんしゅつどひん
5. 但馬城ノ山古墳出土品

■ 指定日

昭和55年6月6日

■ 種別

国指定重要文化財 考古資料

■ 年代

古墳時代前期

■ 所在地

朝来市山東町大月 埋蔵文化財センター

■ 所有者

朝来市



■ 内容

北東に派生する、狭い尾根部の突端に位置する。南北径30m・東西径36m・高さ5mの円墳である。埴輪や葺石はなく、外観は在地の墳墓そのままである。築造形態および墓壙・木棺規模ならびに出土品などからみて、4世紀後半代の古墳と推定されている。

出土遺物については、棺内に人骨(頭部)が残存しており、その東側から銅鏡3面(四獣鏡・唐草文帯重圈文鏡・方格規矩八禽鏡各1)・石釧4・石製合子(身のみ)1・琴柱形石製品1が出土した。

頸部付近では勾玉、管玉が80以上出土している。棺東部では刀剣・工具類が13余り出土した。また棺西部の遺骸足部から銅鏡3面(三角縁獣文帯三神三獣鏡2面、三角縁波文帯三神三獣鏡1面)が出土した。

これらの副葬品一式と配置は、当時における畿内の有力豪族や王ならびに在地主長層の埋葬施設にほぼ共通するものである。これを所有した本遺跡の被葬者は、南但馬と畿内を直接結びつける存在として君臨したと考えられる。